## 天文学と、記。アラネタリウム

今月のお題

## 対話型イベントはお金がかかる



最近はやりの対話型イベント。意義深いのですが、コストがかかる のが玉に瑕。どうしたら良いでしょう?

Www.tenpla.net

高梨直紘 (東京大学) 平松正顕 (国立天文台チリ観測所)

天文学に限らず、科学の普及活動の分野ではここ数年、サイエンスカフェなど対話型イベントがはやりです。知っている人から知らない人へ一方的に知識を伝えるのではなく(啓蒙型と呼ばれます)、私が知っている事を互いに繋げましょう、という思想の下に行われる活動一般が対話型と呼ばれるものです。まあ、企画者が笛吹けど踊らず、というケースも多いのですが、いずれにせよマインドが変わってきた事は確かです。

こういった対話型のイベントの特徴のひとつは、少人数で行う事です。何百人という聴衆を集めるのではなく、10~20人程度で、じっくりと対話するというのが一般的なスタイルです。対話を重視する、少人数でやるべきイベントなのです。こういった対話型のイベントは、総じて参加者の満足度が高くなります。しかし問題がひとつ。運営コストがかかりすぎるのです。

会場費や人件費などは啓蒙型でも対話型でも 10 倍は変わらないと思うと、啓蒙型に比べて参 加者数が 10 分の 1 程度の対話型は、ひとりの 参加者あたりにかけているコストが格段に高い イベントということになります。お金がたっぷりあればそれでもいいのかもしれませんが、残念ながら私たちは貧乏です。いったいどう考えればいいのでしょうか。

## お金をかける価値のあるイベントへ

天プラの解決法はいたってシンプル。お金がかかるのであれば、お金をかける価値があるイベントに仕上げればいいのです。どうやるか。やり方は色々あると思いますが、対話を通じて生み出される新しい発見や驚きを、インターネット経由でリアルタイムで中継するというのもひとつのやり方でしょう。

3月21日に、天プラと計算基礎科学連携拠点 (代表機関: 筑波大学計算科学研究センター) で協力して実施した宇宙図特別イベント「今夜 はとことん宇宙について語り合おう?」は、そ のような考え方に基づいて実施されたイベント です。物理学者の北原和夫さん、哲学者の梶谷 真司さんを、小阪淳さん、片桐暁さんを中心と した宇宙図制作メンバーで囲む豪華な陣容です。 東京都三鷹市にある、三鷹天命反転住宅で行わ



イベント当日の様子。会場は広くないですが、会場から繋がっていた世界は広大でした。

れたこのイベントに参加した一般客は、ゲストや関係者を除けばわずか10名ほど。その代わり、ニコニコ動画と Ustream での同時中継に挑戦しました。対話を通じて生み出された面白さを、ネットを活用して拡散させようと試みたのです。

結果を言えば、大成功でした。3 時間という 長丁場のイベントでしたが、最終的には約 2000 名の視聴者が閲覧して下さいました。想像以上 にネット上からのレスポンスも多く、企画側と しては手応えを感じるイベントになりました。 お金をかける価値があるイベントは創り出せば 良い。これを新たな自信にして、ユニークなイ ベントを考えていきたいと思います。